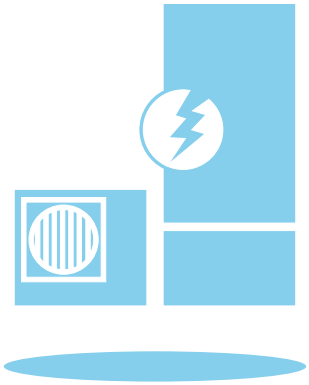
省エネ機器の上手な使い方・選び方

「エコキュート」

ますます省エネ効率が高まるエコキュート。
使い方しだいで、より効率的にご使用いただけます。



■ 上手な使い方

● 説明書をよく読んで

製品の説明書には便利な省エネ設定や、おすすめの使い方が紹介されています。メーカーの説明書やWEBサイトを参考にしましょう。

● 保温や追いだきは控えめに

保温や追いだきは、昼間の電気使用量が増えて効率が悪くなることもあります。
また、冷たくなった残り湯から沸かしなおすより、ヒートポンプを利用してお湯を作ったほうが構造的に省エネです。お風呂の残り湯は上手に使い切り、お湯を張りなおすほうが結局は省エネになります。



● 入浴は間隔をあけずに

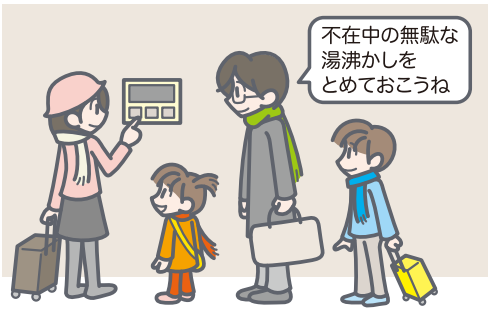
保温や追いだきに無駄なエネルギーを使わないよう、入浴は間隔をあけずに、お風呂にはフタをしてお湯が冷めないようにしましょう。



● 出荷時の設定がおすすめ

製品は、メーカーがおすすめする最も効率のよい設定で出荷しています。
お湯が足りなくなりそうな時には、リモコンの『沸き足し*』を押して必要な湯量を確保してください。旅行等で長期不在の時などは、リモコンの『休止*』設定をしてください。

*メーカー・機種により呼称が異なります。詳しくは取扱説明書をご参照ください。



■ 上手な選び方

● エコキュートの種類

ご家庭の家族構成や、設置状況を確認し、ライフスタイルに合った機器を選びましょう。また、地域によっては冬の寒さに適した寒冷地仕様タイプがあります。

フルオートタイプ：自動でお湯はり、保温、足し湯まで
オート(セミオート)タイプ：自動でお湯はり
給湯専用タイプ：カランからお湯はり

このほかミスト機能や床暖房にも使用できる多機能タイプもあります。

● 貯湯容量（リットル）

エコキュートは主にヒートポンプとタンクで構成され、貯湯容量が大きいほど、世帯人数が多いご家庭に適しています。適切な貯湯容量を選ぶと、湯量が不足せず、無駄なエネルギーも省き快適に利用することができます。

人数の目安	タンク容量
2～4人家族の場合	300Lクラス
3～5人家族の場合	370Lクラス
4～7人家族の場合	460Lクラス
5～8人家族の場合	550Lクラス

出所：一般社団法人 日本冷凍空調工業会

■ 統一省エネラベルと多段階評価点

省エネ性能の高い順に0.1きざみ（5.0～1.0）の評価点で表示。
★（星マーク）は多段階評価点に応じて表しています。



エコキュート
目標年度2025年度



エコキュート（寒冷地・少人数）
目標年度2025年度

エネルギー消費効率

同じ貯湯容量、仕様の場合、エネルギー消費効率が高いほど、省エネ性が優れた機器といえます。

省エネ基準達成率

製品が属する区分の目標基準値に対し、エネルギー消費効率がどの程度達成しているかを%で示します。
エコキュートは、想定世帯（少人数、標準）、貯湯缶数、貯湯容量、仕様（寒冷地仕様以外のもの、寒冷地仕様）により分けられた区分ごとに、目標基準値が設定されています。機器の貯湯容量が異なるなど、選び方によってエネルギー消費効率だけでは比較が難しい場合は、省エネ基準達成率も参考にしてください。

この製品を1年間使用した場合の目安電気料金

（有効数字3桁100円未満は四捨五入）

目安電気料金 ＝ 給湯（保温）モード消費電力量（kWh） × 電気料金単価（円/kWh）

東京・大阪の外気温度を前提に**4人世帯**を想定して電気温水機器を使用する場合、

目安電気料金 ＝ 4人世帯を想定した1年間あたりの電気使用量（kWh） × 平均的な電気料金単価 **23**（円/kWh）

少人数仕様の場合

東京・大阪の外気温度を前提に**2人世帯**を想定して電気温水機器を使用する場合、

目安電気料金 ＝ 2人世帯を想定した1年間あたりの電気使用量（kWh） × 平均的な電気料金単価 **23**（円/kWh）

寒冷地仕様の場合

盛岡の外気温度を前提に**4人世帯**を想定して電気温水機器を使用する場合、

目安電気料金 ＝ 4人世帯を想定した1年間あたりの電気使用量（kWh） × 平均的な電気料金単価 **20**（円/kWh）

少人数仕様かつ寒冷地仕様の場合

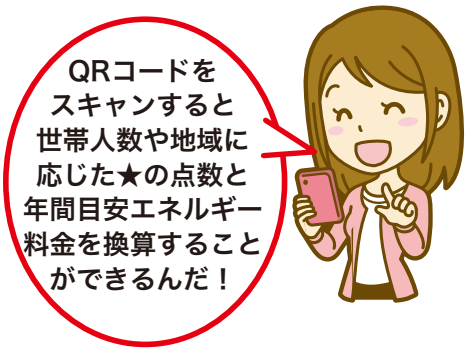
盛岡の外気温度を前提に**2人世帯**を想定して電気温水機器を使用する場合、

目安電気料金 ＝ 2人世帯を想定した1年間あたりの電気使用量（kWh） × 平均的な電気料金単価 **20**（円/kWh）

使用期間中の環境負荷に配慮し、省エネ性能の高い製品を選びましょう。

使用する地域や世帯人数により、★による点数および目安電気料金は異なりますので、ラベルに記載のQRコードからご確認ください。

温水機器換算アプリの使い方



手順 ❶
エネルギーの種類を選択します。

手順 ❷
ラベルを見て★の点数（任意）、エネルギー消費効率（必須）と年間目安エネルギー料金（必須）を入力します。
手順 ❶でエネルギーの種類を選択すると、自動で既定の単価が表示されます。（変更可能）

エネルギー単価については、最初に選択したエネルギーの種類に応じた既定の単価が表示されますが、変更することもできます。より実際に近い単価を入力すると、算出される年間目安エネルギー料金もより実際に近い金額になります。

手順 ❸
世帯人数と地域を選択します。
（地域は郵便番号でも選べます）

手順 ❹
換算

★の点数と年間目安エネルギー料金が表示されます。

★の点数及び年間目安エネルギー料金の換算表示



エネルギー選択によりエネルギー単価を自動変更

エネルギー選択肢	エネルギー単価 初期表示
電気	23
電気・寒冷地仕様	20
電気・少人数仕様	23
電気・寒冷地仕様・少人数仕様	20
都市ガス	156
液化石油ガス（LPガス）	706
灯油	88

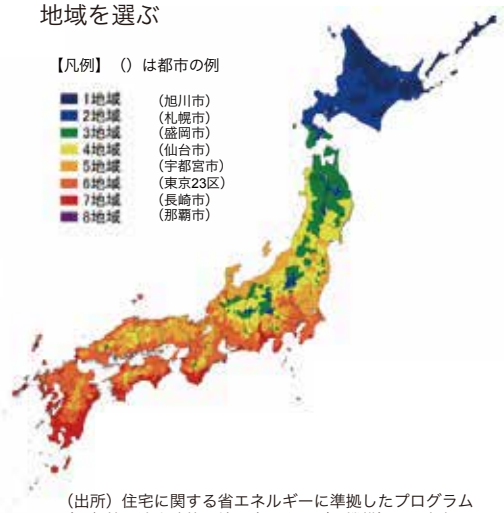
エネルギー単価はユーザが入力して変更も可能
エネルギーを再選択したとき、単価が初期表示に戻る



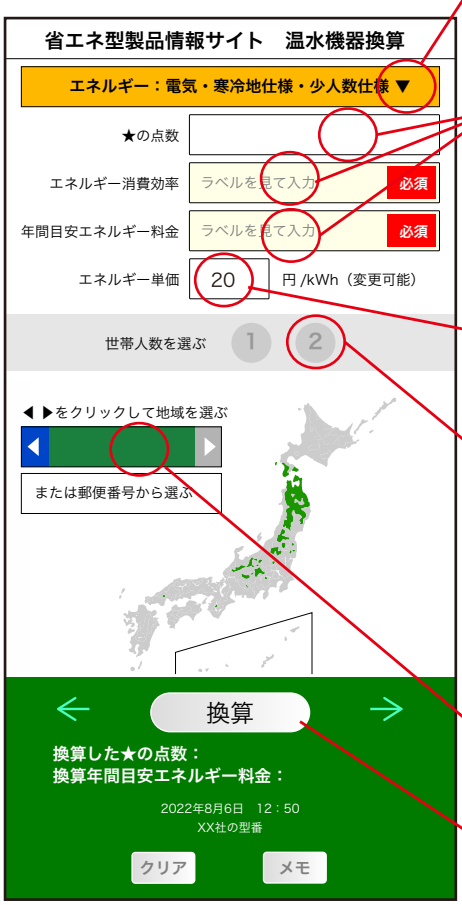
エコキュート（電気・寒冷地仕様・少人数仕様）の例



地域を選ぶ



（出所）住宅に関する省エネルギーに準拠したプログラム（一般社団法人建築環境・省エネルギー機構）を一部加工



手順 ❶エネルギーの種類はプルダウンで電気・寒冷地仕様・少人数仕様を選択します。

手順 ❷ラベルを見て★の点数（任意）、エネルギー消費効率（必須）と年間目安エネルギー料金（必須）を入力します。**手順 ❶**でエネルギーの種類を選択すると、自動で既定の単価が表示されます。（変更可能）

エネルギー単価については、最初に選択したエネルギーの種類に応じた既定の単価が表示されますが、変更することもできます。より実際に近い単価を入力すると、算出される年間目安エネルギー料金もより実際に近い金額になります。

手順 ❸世帯人数を選びます。
電気・寒冷地仕様・少人数仕様は選べる世帯人数と地域が限られます。（電気・少人数仕様は、選べる世帯人数が1人、2人のみになります。電気・寒冷地仕様は選べる地域が、1地域、2地域、3地域のみになります。）
地域を選択します。
（地域は郵便番号でも選べます）

手順 ❹
換算

★の点数と年間目安エネルギー料金が表示されます。

■ 掲載製品

家庭用電気温水機器で、二酸化炭素を冷媒として用いるヒートポンプで構成するものを掲載しています。暖房用、業務用製品は対象外です。

省エネ性能カタログの区分　貯湯缶数、貯湯容量によって行っています。
（サイトでは絞り込み検索ができます。）

エコキュート 320L未満
エコキュート 320L以上550L未満
エコキュート 550L以上
エコキュート 少人数
エコキュート 多缶

■ 各種表示

● 省エネ基準達成率（%）

その製品が属するトップランナー基準の区分の目標基準値を、どの程度達成しているかを%で示します。
エコキュートは、想定世帯（少人数、標準）、貯湯缶数、貯湯容量、仕様（寒冷地仕様以外のもの、寒冷地仕様）により分けられた区分ごとに、目標基準値が設定されています。

● エネルギー消費効率

1年間に得る熱量（単位MJ）と消費電力量（単位kWh）をJIS C 9220（2018）に基づき測定し、算定式により求めた結果を小数点1桁まで表示しています。

ふろ保温機能を有するもの

$$\text{年間給湯保温効率} = \frac{\text{1年間に使用する出湯水が得た熱量(MJ)+ 保温のために浴槽水が得た熱量(MJ)}}{\text{1年間に必要な消費電力量(kWh)} \times 3.6}$$

ふろ保温機能がないもの

$$\text{年間給湯効率} = \frac{\text{1年間に使用する出湯水が得た熱量(MJ)}}{\text{1年間に必要な消費電力量(kWh)} \times 3.6}$$

MJ(メガジュール)は発熱量の国際単位です。MJをkWhで除す場合、1kWh = 3.6MJの換算ができることから、換算係数として3.6を使用しています。

● 貯湯容量（L）

製品に表示される貯湯量です。JIS C 9220（2018）「家庭用ヒートポンプ給湯機」に規定する湯水を貯蔵できるタンクの容量を指します。
標準（4人家族用）で370～460リットル、コンパクトタイプ（単身・2人など）で150～200リットルと考えられます。
少人数世帯向けの製品は、200リットル程度の貯湯容量が一般的であることから、貯湯容量が表示されない場合もあります。

● 少人数仕様

貯湯容量が少なく、世帯人数1～2人用の製品です。

● 寒冷地仕様

寒冷地仕様は、JIS C 9220（2018）に規定する冬の寒さが厳しい地域での仕様を指します。一般地向けとは区別して設計・製造され、その評価方法も異なることからエネルギー消費効率の基準値が異なります。

● 貯湯缶数

貯湯タンクが1つのもの（一缶式）と、設置される場所を考慮して、小容量の複数のタンクで構成するもの（多缶式）に区分しています。貯湯缶数によって保温性能が異なることからエネルギー消費効率の基準値が異なります。
少人数世帯向けの製品は、200リットル程度の貯湯容量が一般的であることから、ほとんど一缶式と考えられるため、貯湯缶数は表示されません。

● 給湯（保温）モード消費電力量（kWh）

給湯モードまたは給湯保温モードで運転したときの1年間の消費電力量です。ふろ保温機能がない製品（オート・セミオート・給湯専用）とふろ保温機能がある製品（フルオート）があります。フルオートは保温のために浴槽水に熱を加えることから消費電力量が他製品とは異なります。

● 電気料金単価（円/kWh）

23（円/kWh）。寒冷地仕様は20（円/kWh）。